

平成 30 年度 ソフィア 12 月号

2025 年 大阪万博決定。新聞で、ヤフーニュースで、テレビで、それぞれに大きく発信されてきました。「いのち輝く未来社会のデザイン」

7 年後、今 0 歳児クラスの子どもたちも小学校へ入っていることを考えると、どんなワクワクした未来がデザインされた万博になるのかと思います。

未来社会が便利になり快適になり文化が発展していく社会に期待をもちながら、ひとり一人の「いのちが輝く」社会も忘れず求めていってほしいと願います。

2011 年 3 月 11 日、東日本大震災で当時勤務していた東松島市鳴瀬第二中学校で被災し教え子を含む多くの関係者を失う経験を経て現在、和光大学で教鞭をとられている制野俊弘先生のお話を聴く機会がありました。

被災した中学校の廃校そして、統合していく過程の中で、「命」をテーマに、生徒、保護者、地域とともに学びを広げられてきました。

「命とはなにか?」「生きるとはどういうことか?」制野先生は子どもたちに問いかけながら、子どもたちの本音はどこにあるのかと模索していきます。

子どもたちの「こころもち」を共感し理解していくことは、乳幼児教育の課題のひとつです。

泣いているこの子の気持ちはどうなんだろう?

かたくなにいやいやしているこの子の気持ちはどうしてなんだろう?

その時の子どもたちの本音を聞ける大人や仲間が周りにいる優しい社会にしていきたいと強く思います。この経済的にも豊かな日本に、こどもの貧困率は 15.6% (7 人に 1 人) の数字があり、(厚生労働省 国民生活基礎調査より) 児童虐待相談対応件数は、13 万 3 778 件という驚くべき数字があがっています。(厚生労働省より)

ひとり一人の命が輝く社会になるために、その時その時の子どもの心に共感する。という小さな行為が、真に優しい社会につながるのではと思います。12 月、クリスマスの灯りが、輝く時。すべての子どもたちの心に小さくとも一筋の光がとりますように。

4 月から新年度が始まり、9 か月。今年 1 年、園運営にご協力いただきありがとうございました。年末、年始はいつもの雰囲気とは変わる日本の文化。ご家族で、楽しい時間をお過ごしください。

『泣きたい人は思い切り泣いていい。後悔する人は思い切り後悔していい。弱い人は一人で悩まずに「私は弱い」と叫べばいい。きっと誰かが受け止めてくれる。そんな世の中つくろうぜ』

参考文献 制野俊弘 命と向きあう教室 ポプラ社
ソフィア東生駒こども園 園長 中畑直実